

地理歴史・公民科学習シラバスの基本的な考え方

「教師は授業で勝負する」 この言葉の意味するところを考えてみたい。そもそも教師が「授業で勝負する」とはどのような意味を持つのか。勝負するに値する授業とはどのようなものなのか。いうまでもなく、授業は生徒と教師、そして教材で構成される。授業において教師は、教材と生徒との出会いを仕組む。それにより生徒は知的成長を遂げる。また、授業方法によっては生徒間の相互作用を促し、生徒個々の精神的発達をも可能ならしめる。したがって、日々の授業の目標とするところは、教材を通して生徒に普遍的な真理を発見させることであり、教師と生徒、教材と生徒、そして生徒同士の関係性から生徒の精神的な発達を涵養することである。それでは、授業の目的とは何か。何のために授業をするのか。あるいは授業をしなければならないとする前提は何なのか。それは、授業が貴いものであるからにほかならない。授業は、未来社会を建設する人材を育成するためのものである。未来永劫に向かって人類が健全な姿で存続発展するために、過去から今日まで先人が築いた文化遺産の継承と、その上にたつてさらなる向上・発展を託すところに授業は成立しているのである。このような前提に立てば、一時間という授業でどのような真理をいかに伝えるのか、教師はその選択において重要な責務を負っているといえよう。それゆえに、教師は「授業で勝負する」のである。

地理歴史・公民科ではこのような授業観に基づき、学習シラバスを作成した。取り上げた科目は「地理B」および「世界史A」、「世界史B」、「倫理」、そして「政治・経済」である。これらの科目で取り扱う学習内容は、生徒の生活感覚や社会生活からは程遠いものである。それゆえ、地理歴史・公民科を担当する教師の多くは、生徒から次のような質問を受ける。「なぜ、地理を勉強しなければならないの?」、「世界史の勉強にどんな意味があるの?」、「世界史や倫理の勉強って、生活する上で役に立つの?」と。教師の一義的な仕事が授業であるのならば、このような質問に対し明快な説明を加えねばならない。そこで、一つの回答例として、本学習シラバスを提示する。

シラバスでは、何のために世界史や倫理を学習するのか、どのようにして学習していくのか、そして学習したことをどのように評価するのかといった点を、授業者である教師の思いを交えながら示している。また学習の様々な活動において、4観点からの評価の具体を示すことで、どのような力が地理や政治・経済の学習で求められているのかを明らかにしている。

本学習シラバスが、これを手にした先生方の「授業で勝負する」という気概を駆りたて、生徒の心に灯をともし授業実践や学習指導のための一助になり得たならば望外の喜びである。

地理歴史・公民科学習シラバス作成員

酒井聖佳	高知県立中村高等学校
吉岡太史	高知県立高知南高等学校
福井恵子	高知県立高知西高等学校
野中昭良	高知県立城山高等学校
尾崎召二郎	高知県立岡豊高等学校